

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月7日現在

機関番号：35409

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520389

研究課題名（和文） 魯迅をめぐる日本人—新資料の発掘—に関する研究

研究課題名（英文） Research on the New Materials about the Japanese men of letters relating with LuXun.

研究代表者

久保 卓哉 (KUBO TAKUYA)

福山大学・人間文化学部・教授

研究者番号：10149966

研究成果の概要（和文）：魯迅をめぐる日本人のうち、内山完造、児島亨（中村亨）、須藤五百三、及び林芙美子、に関する新資料の発掘を行った。調査の対象とした中村耕雲の旧宅（岡山県後月郡）からは、内山完造、内山嘉吉等の書簡、写真と、内村鑑三の自筆原稿等が発掘され、また、魯迅日記に二度登場する林芙美子が所蔵してきた、魯迅から贈られた腕輪と、方紀生から贈られた化粧箱が新資料として発掘された。その研究成果は論文としてまた国際学会において報告した。

研究成果の概要（英文）：I discovered new materials on Japanese men of letters relating with LuXun, especially on such people as Kanzo Uchiyama, Toru Kojima (Toru Nakamura), Iozo Suto, and Fumiko Hayashi.

In the old house of Koun Nakamura which I had explored, I discovered not only the letters and pictures of Kanzo Uchiyama and Kakichi Uchiyama, but also the manuscripts of Kanzo Uchimura, and further discovered a bracelet gifted her by LuXun and a makeup box given her as a gift by Fang Ji Sheng, both of which had been possessed by Fumiko Hayashi, whose name appears twice in the diary of LuXun. I published a few papers on my explorations and discovery in the academic journal of Fukuyama University and at the same time reported on them at the international conference held in Shaoxing in 2006 and in Xiamen in 2009.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：中国文学、魯迅、内山完造、林芙美子、児島亨、須藤五百三

1. 研究開始当初の背景

魯迅と内山完造、児島亨（中村亨）、須藤五百三との関係は、日中両国の研究者によりかなり明らかにされているが、魯迅臨終の場に相前後して居合わせ心をこめて魯迅を助けようとしたこの日本人三人の関係を、岡山県の出生地を調査することによって究明するという着想をもってなされた研究はまだ無かった。基点となった児島亨（中村亨）の祖、中村耕雲（江戸時代の漢方医）の旧家からは、内山完造の書簡、写真、上海内山書店から届いた雑誌、写真、完造の弟内山嘉吉の書簡、完造の父賢太郎の名が記された文書、更には内村鑑三の「聖書之研究」の自筆原稿15枚、そして大逆事件で幸徳秋水とともに処刑された森近運平の書簡も出て来たのだが、このような文化遺産が存在することは教育委員会によっても把握されていなかった。

林芙美子研究者が魯迅との交流について言及することは皆無とあってよい。言及している場合は、板垣直子(1896-1977)による林芙美子の「年譜」を孫引きして、「パリからの帰り魯迅と会った」と記している程度である。しかもその時に魯迅から「歸雁」詩を贈られたという板垣の説を踏襲しているが、本研究によってその定説の誤りを正した。更に特記すべきは、魯迅が贈ったと伝えられる「腕輪」の存在で、謎が多い。林芙美子自身が「魯迅さんからいただいたのよ」と言っていたのを聞いた遺族は、その腕輪が二つあり、その一つには漢詩が彫られていたと語る。果たして魯迅が贈ったものなのかどうか。また、方紀生から贈られた「化粧箱」（直方体）の側面には、「林芙美子女士恵存 方紀生敬贈一九四〇年」の文字が刻まれ、上面には陶淵明「飲酒」詩と絵が彫られている。周作人を師と仰ぐ方紀生が、下落合の林芙美子の家に入出入りしていたことは、「周作人氏へ」（『文藝』1941年5月号）に書かれている。注目されるのは陶淵明の詩で、方紀生は林芙美子の漢詩嗜好を熟知していたと思われる。林芙美子の「日記」に、陶淵明のこの句が好きだと書かれているからである。この「化粧箱」も林芙美子研究に新たな波紋を投ずることになる。

2. 研究の目的

内山完造、児島亨（中村亨）、須藤五百三に関しては、中村耕雲旧宅に残る資料を収集し、それを解説、分析することを目的とした。その過程で明らかになった、国内はもとより上海魯迅記念館にも知られていない新資料である内山完造の写真、内山完造の叔母中村

松ゑの写真（中村耕雲の孫中村文太郎の妻）、内山完造の母内山直の書簡、内山完造の弟内山和平、嘉吉の書簡、内山完造の叔父内山喜多治、庫太の書簡等の分析を行い、中村耕雲の資料では、飢肥藩の阿萬豊蔵と水戸藩徳川斉昭の医政との関係及び華岡流医術との関係を明らかにすることを目的とした。本研究が江戸時代の中村耕雲にまで及んだ理由は、内山完造の祖にも江戸時代の医師石川順介がおり、仙台医学専門学校で学んだ魯迅との関係で、医学という視点からも研究を進めることができるからである。

林芙美子にまつわる魯迅の「歸雁」詩の書及び銀製の「腕輪」と、周作人の「偈頌」の書及び方紀生の「化粧箱」について論じた研究は、国内外ともに存在しない。また、林芙美子研究の上で、漢詩を好み、満州、南支の風土を好み、支那の人士を愛した林芙美子に焦点を当てた研究が存在せず、また、林芙美子の書簡や書き損じ原稿等の、埋もれた資料を発掘する研究も存在しない。このため、これらを新たに分析し、発掘することを研究の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 新資料を発掘するために主として実地調査を実行した。平成21年から23年までの毎年において、岡山県後月郡高屋村丹生の中村耕雲旧宅に残る文物を採取。廃屋に遺棄された文物であるため、汚れ、破損、劣化があり、採取した資料の回復を図った上で、デジタルカメラ、スキャナを用いて、電子データとして保存した。

(2) 国内外において実行した研究

① 平成21年9月 中国廈門市、南普陀寺にある閩南仏学院で、釋芝峰、弘一法師の事跡を調査。釋芝峰は林芙美子に自筆の七言絶句を贈っているが、国内にその資料がないため、閩南仏学院図書室にある図書と雑誌から釋芝峰の資料を採取した。

② 平成21年11月 旧満洲時代の奉天と哈爾濱で発行された日本人発行の中国語新聞「盛京時報」「國際協報」「濱江時報」を所蔵する国立国会図書館関西館において、マイクロフィルムと影印版を調査した。魯迅が林芙美子に贈ったと伝わる腕輪に彫られた「寶清縣」「協和會」との関連を調べ1941年9月に関連する記事を採取した。

③ 平成21年12月 旧満洲の地で刊行された日本語新聞「満洲日報」「満洲日日新聞」「大新京日報」三紙を国立国会図書館東京本館と新館において、1930年から1941年の期間を

調査し、林芙美子の渡満記事と山本實彦等の文藝報国隊の記事を採取した。

④ 平成 22 年 3 月 日向、飢肥藩の招きで薬草調査をした中村耕雲の事跡を調査。飢肥城歴史資料館と小村寿太郎記念館の長友禎治氏より資料の提供を受け、中村耕雲に送別の辞を揮毫した阿萬忠厚の事跡を調査し、清武町では清武町誌編纂室の竹井眞知子氏より阿萬忠厚文書の資料提供を受けた。これにより、飢肥藩における阿萬忠厚の位置付けが明らかになり、中村耕雲と飢肥藩との関係を明らかにする資料を得た。

⑤ 平成 22 年 9 月 北京魯迅博物館、黄喬生副館長及び中国人民大学文学院、孫郁学院長から、黒龍江省調査のための機関を紹介されて哈爾濱入りし、黒龍江省社会科学院、趙玉貴社長と王敬栄教授の助言を得て、哈爾濱市図書館、哈爾濱市档案馆で協和会資料を調査した。佳木斯では、佳木斯档案馆及び日本関係資料収集家宋金和氏の資料を調査し、宝清県では、宝清県地方志辦公室、于畔海主任から得た資料と、1940 年代を記憶する老齢の市民数名から聞き取り調査を行った。

⑥ 平成 22 年 11 月 国立国会図書館東京本館で、「満州新聞」「新京日日新聞」(1940 年 1 月、2 月) から、林芙美子の談話の記事と、「空路」による帰国を伝える記事を採用した。林芙美子記念館では、伝魯迅贈「腕輪」の所有者である林福江氏に、9 月に実施した満州調査の報告をした。

⑦ 平成 23 年 3 月 井原市芳井町吉井において、内山完造が少年期に通った中村耕雲宅への古道を現地調査した。

⑧ 平成 23 年 8 月 長春(旧新京)において、関東軍司令部、憲兵隊本部、協和会本部、新京日日新聞社、敷島高等女学校等の旧建造物を調査した。現地で購入した旧満洲国時代の地図が有益であった。また、吉林省档案馆、吉林省社会科学院、長春市地方志編纂委員会、吉林省方志館、吉林省図書館、長春市档案馆、長春市図書館で、1940 年前後の档案資料、及び「盛京新聞」「新京日日新聞」を調査し、偽満時代の溥儀、溥傑、婉容、潤麒を研究している王慶祥氏(吉林省社会科学院)から諸機関の紹介と資料の提供を受けた。

⑨ 平成 23 年 12 月 水戸弘道館の小坪のり子氏より、水戸藩と弘道館の薬草学の資料の提供を受け、茨城県歴史館の笹目礼子氏より、水戸藩の医師佐藤中陵、楊元善、佐藤方定の資料の提供を受けた。これらにより備中の薬草医学者中村耕雲が採取した人参を、水戸藩主徳川斉昭に献上した背景が明らかになった。東京の明治大学図書館では、「清国留学

生学籍簿」の閲覧提供を受け、魯迅と周作人との関係がある方宗鼈が明治大学商科に在籍した事を確認した。方宗鼈は方紀生の父君である。林芙美子記念館では林福江氏より、氏が所蔵する写真帳 8 冊の全ての写真の閲覧提供を受け、更に芙美子の自筆原稿の閲覧提供を受けた。写真帳では、芙美子自筆の写真説明文の中に「方紀生」の名があり、芙美子と方紀生の関係を写真帳でも裏付ける事ができた。

⑩ 平成 24 年 1 月 新宿区中井において、林福江氏所蔵の写真帳のうち「方紀生」の名がある頁の撮影を行い、文芸評論家尾形明子氏から、林芙美子、熱田優子合作の油絵の閲覧提供を受けた。

⑪ 平成 24 年 3 月 かがしま近代文学館において、林芙美子の自筆原稿、書軸、着物、帯、及び与謝野鉄幹の書簡を閲覧、写真撮影し、川内まごころ文学館では、林芙美子の自筆原稿と、改造社の山本實彦に宛てた、胡適(魯迅と同じく五四文学革命の先導者)、堺利彦(大逆事件の幸徳秋水、森近運平の同志)、与謝野鉄幹、与謝野晶子、永井荷風等の書簡を閲覧、写真撮影した。屋久島では、町立歴史民俗資料館で、林芙美子の「浮雲」と「屋久島紀行」に登場する、トロッコ道、営林署官舎、小杉谷、安房館、宮之浦の町並等の過去と現在の状況について情報を得、それに基づいて屋久島の現地調査を行った。

⑫ 平成 24 年 3 月 新宿区中井において、林福江氏所蔵の林芙美子の自筆原稿 244 枚の電子データ化と分析の経過について報告し、新宿歴史博物館では、林芙美子の屋久島と漢口従軍に関する、手帳、日記の資料を閲覧し、写真撮影した。長野県山ノ内町の林芙美子文学館では、黒鳥正人館長から林芙美子が戦争中に疎開した背景と実態を聞き取り、山ノ内町立志賀高原ロマン美術館では鈴木幸野氏より、現地を訪れた文学者が遺した文物とその発掘の現状を聞き取り調査した。

⑬ 平成 24 年 3 月 京都市四条大宮に現存する賀陽コーポラスにおいて、方紀生夫妻の居住経歴を調査した。

4. 研究成果

(1) 本研究の全期間中において、岡山県後月郡高屋村丹生(現岡山県井原市高屋町丹生)の中村耕雲旧宅に残る文物(古文書、書簡、文房具、書籍、家具、生活用具、農具)を整理、分析した結果、内山完造に関する資料として、以下のものが発掘された。内山完造の書簡、写真。上海内山書店から送られた雑誌『浙江文化研究』『中國文學』、新

聞『日本文化時報』『日本讀書新聞』。内山完造の母内山直の書簡、内山完造の叔母中村松ゑ（中村耕雲孫中村文太郎の妻）の写真、内山完造弟内山和平、内山嘉吉の書簡、内山完造の叔父内山喜多治、内山庫太の書簡。

(2) 同上、中村耕雲に関する資料。短刀一本、「元龜二年八月 備後庄吉定」の銘がある。元龜二年（1571年）は室町時代の末であり、古くから中村家に伝わるこの短刀は、中村耕雲が采薬等のために日常的に使用していたと考えられる。

(3) 同上、内村鑑三、矢内原忠雄に関する資料。内村鑑三主幹『聖書之研究』の内村鑑三自筆原稿 15 枚。東京大学矢内原忠雄の講義「殖民地論」の受講ノート（中村九郎筆記、東京大学農学部学生）

(4) 同上の旧宅は、内山完造の生家、及び大逆事件の森近運平の生家と近く、森近運平の獄中記「回顧三十年」に井原精研高等学校の同級生として中村登が登場する。中村登の兄中村喜久太は、森近運平が尊敬する人物で、森近運平の中村喜久太宛書簡が三通存在する。内山完造は少年期、日常的に中村家に行き、内山完造にも中村喜久太宛の書簡がある。従って、中村喜久太、中村登兄弟を訪ねた森近運平と内山完造が、共に中村家で時を過ごしたと考えられる。

(5) 日向飢肥藩の要請を受けて飢肥の薬草を調査した中村耕雲が、飢肥で逗留した飢肥藩士阿萬豊蔵の屋敷跡の所在が判明した。その地清武には、安井息軒の旧宅と郷校「明教堂」がある。

(6) 中村耕雲が採取した人型人参のことを記述した『備急蓬萊八薬新論』（安政四年刊）の著者佐藤方定は、水戸藩士で水戸烈公徳川斉昭の医政に沿う漢方医薬学者で、中村耕雲は水戸においても知られた医薬学者であることが判明した。

(7) 内山完造の遺族のもとに、弘一法師からの書簡と林芙美子からの書簡が保存されていることが判明した。弘一法師の書簡には『華嚴經疏論纂要』を内山完造が日本に郵送配布した返礼として「拙書二十葉」を贈ることが書かれており、この書簡に符合するように、その弘一法師の書を内山完造に求めたことが、魯迅の日記に見える。林芙美子の書簡は、1930年9月奉天発上海内山完造宛で、そこには日本を8月20日に発ったこと、上海の波止場まで出迎えを願うことが書かれている。これにより、林芙美子の満州旅行の出発日が判明し、上海へは大連発の汽船で行ったこと、そして内山完造に手紙を出したのは新居格の紹介によってであることが判明し

た。

(8) 林芙美子所蔵の魯迅贈と伝わる腕輪には「寶清縣本部」の刻字があり、林芙美子は「凍れる大地」で宝清県の協和会で日本人に対して話をしたと記す。芙美子が足跡を残した、兵舎、病院、協和会、飛行場、城壁の位置を特定することができた。『宝清県志』の検索と閲覧は、web上の「中国龍志」で可能であることが判明した。

(9) 林芙美子が所蔵する「化粧箱」の贈主方紀生の父方宗鼈は、明治大学商科を卒業した清国留学生であることが判明した。また、林芙美子の八冊の写真帳には、林芙美子の手で書かれた方紀生の名があることが判明した。その方紀生は昭和51年京都市下京区四条大宮の賀陽コーポラス513号に居住していたことが判明した。

(10) 林芙美子の遺族が所蔵する林芙美子の書き損じ原稿は、現在244枚あり、行方不明の同原稿のうち5枚は尾道市藤原茶舗にあり、別の5枚は長野県在住林緑敏遺族の処にあり、それは「凍れる大地」の原稿であることが判明した。

(11) 林芙美子の遺族が所蔵する、川端康成宛林芙美子書簡の箋紙一枚は、尾道東高等学校が所蔵する書簡の箋紙一枚と、本来は一通の書簡として存在するものであることが判明した。昭和20年1月6日の日付と、長野県下高井郡穂波村角間の差出人住所から、林芙美子が疎開していた角間温泉からのものであることが分かる。

(12) 画家志望でもあった林芙美子の油絵「熱田優子像」が、尾形明子氏のもとに保管されていることが判明した。林芙美子が三割、熱田優子が七割描いた合作の絵である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 久保卓哉、浦野利喜子、「林芙美子全集に未収録の作品について 附資料林芙美子全集（文泉堂出版）未収録作品リスト」、『福山大学人間文化学部紀要』12巻、31-71頁、2012年、査読無
- ② 久保卓哉、「林芙美子と凍れる大地—満州宝清への旅—」、『福山大学人間文化学部紀要』、11巻、1-24頁、2011年、査読無
- ③ 久保卓哉、「林芙美子蔵 魯迅親筆銭起「歸雁」詩について」、『福山大学人間文

研究者番号：

化学部紀要』、10巻、1-16頁、2010年、
査読無

- ④ 久保卓哉、「林芙美子蔵 釋芝峰七言絶句について」、『福山大学人間文化学部紀要』、9巻、1-15頁、2009年、査読無
- ⑤ 久保卓哉、「魯迅の絶筆—許広平と内山完造と児島亨—その時刻と経路をめぐって」、『野草』、80号、27-42頁、2007年、査読有
- ⑥ 久保卓哉、「医薬学者中村耕雲の系譜—児島亨と内山完造と、そして魯迅と—」、『福山大学人間文化学部紀要』、7巻、1-19頁、2007年、査読無

〔学会発表〕(計2件)

- ① 久保卓哉、「林芙美子所蔵 魯迅、釋芝峰の書及びその他の文物について」、日中視野下の魯迅国際学術研討会、2009年9月24日、厦門大学(中国)
- ② 久保卓哉、「魯迅の絶筆書簡—許広平と内山完造と児島亨—その時刻と経路をめぐって」、跨文化対話—魯迅生誕125周年逝去70周年記念国際学術研討会、2006年10月17日、紹興市(中国)

〔その他〕

アウトリーチ活動情報

- ① 久保卓哉、「中村耕雲と耕雲旧宅の文物—幕末の医薬学者—」、福山大学人間文化学科文化フォーラム、2011年1月29日、福山大学社会連携研究センター
- ② 久保卓哉、「日中友好の架け橋 魯迅と後月郡高屋町丹生との関係」、福山大学公開講座、2009年9月30日、三原市中央公民館
- ③ 久保卓哉、「林芙美子・魯迅・内山完造—釋芝峰の詩軸をめぐって—」、福山大学人間文化学科文化フォーラム、2009年1月24日、福山大学社会連携研究センター

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保 卓哉 (KUBO TAKUYA)
福山大学・人間文化学部・教授
研究者番号：10149966

(2) 研究分担者 該当なし

研究者番号：

(3) 連携研究者 該当なし